

平成28年度関西支部総会を開催

7月4日（月）、（一社）日本航空宇宙工業会の平成28年度関西支部総会が活況のうちに開催された。

関西支部は、昭和29年9月、当時の日本航空工業会役員会で設立が決定されて以降、大阪府、京都府、兵庫県及びその周辺地区の航空宇宙関係企業を対象に、勉強会、講演会、工場見学会などを実施してきている。

支部長は、川崎重工業(株)、新明和工業(株)、住友精密工業(株)、(株)島津製作所が歴任し、現在会員会社 22社を構成メンバーとして活動している。

航空宇宙分野において、地域として結集し、技術力、生産能力等を高める動きが活発化していることを考慮すると、関西地区会員会社の意見交換、議論の場として、活動内容の充実を図っていく必要がある。

平成28年度総会と当日実施された講演会の概要は次のとおりである。

1. 日 時：平成28年7月4日（月） 13：30～18：30
2. 場 所：新明和工業株式会社 航空機事業部 甲南工場
3. 出席者：（関西支部）深井浩司支部長以下、会員22社中17社39名
（本 部）今清水浩介専務理事、武藤総務部部長
4. 当日の行事：
 - (1) 総 会 （13：30～14：20）
 - ①支部長挨拶：深井支部長
 - ②本部挨拶：今清水専務理事
 - ③平成27年度支部事業報告：深井支部長
 - ④平成27年度本部事業報告：武藤総務部部長
 - ⑤平成28年度本部事業計画：武藤総務部部長
 - ⑥支部会員異動紹介：田中事務局代表
(入会) 京セラ株式会社 (退会) 古野電気株式会社
 - (2) 講演会 （14：30～15：20）

演題：「二式飛行艇の遺伝子を引き継ぐUS-2型救難飛行艇」

講師：新明和工業(株) 航空機事業部 技術本部 技術部長 藤本 記永 氏
 - (3) 工場見学 （15：30～16：50）
 - (4) 懇親会 （17：00～18：30）

関西支部の組織と活動

○ 関西支部会員会社（22社、五十音順）

インターナショナルタスクフォース(有)、川崎重工業(株)、川西航空機器工業(株)、京セラ(株)、(株)神戸製鋼所、(株)ジェイテクト、(株)島津製作所、新日鐵住金(株)、新明和工業(株)、(株)ジーエス・ユアサテクノロジー、(株)スギノマシン、住友精密工業(株)、双日エアロスペース(株)、(株)ダイセル、(株)寺内製作所、ナブテスコ(株)、日立金属(株)、(株)日立製作所、(株)フジキン、三井精機工業(株)、三菱スペース・ソフトウエア(株)、森村商事(株)

○ 支部長・副支部長

支部長：新明和工業(株)

副支部長：川崎重工業(株)

同：住友精密工業(株)

同：(株)島津製作所

取締役 常務執行役員 航空機事業部長 深井 浩司 氏

執行役員 ガスタービン・機械カンパニー

ガスタービンビジネスセンター長 山田 勝久 氏

代表取締役副社長 田岡 良夫 氏

航空機器事業部 副事業部長 林 宗浩 氏



今清水専務理事 挨拶



総会風景

深井支部長挨拶（要旨）：

今年度の関西支部総会の開催にあたり一言ご挨拶を申し上げます。関西支部長の深井でございます。本日はお忙しい中、皆様にお集まりいただきありがとうございます。また、工業会本部から今清水専務理事様、武藤総務部部長様には遠くからお越しいただきまして厚くお礼を申し上げます。

現在国際社会においては中国や新興国での経済成長の鈍化、イギリスのEU脱退問題やテロが株式市場に与える心理的影響は大きくなっており、日本経済においても急激な円高や株安等により予断を許さない状況になってきております。このような状況ではありますが、航空宇宙産業界は安定した成長を継続しており、昨年度はわが国の航空機生産額が1.8兆円に迫る規模になるとともに、将来に向けた明るい話題が満載の年でもありました。

民間航空機分野ではボーイング777Xへの参画が正式決定し、主要構造の約21%を担うことになりました。また日本企業がエンジン開発に参画したPW1100G-JMを搭載するエアバスA320neoの型式証明が取得され、生産が本格化していきます。

完成機としては三菱リージョナルジェットの新機種の初飛行やホンダジェットの型式証明が取得されるなど、日本の完成機事業がいよいよ花開くと期待されます。

防衛関連分野では昨年10月に防衛装備庁が発足し、防衛装備品の研究開発、調達から海外移転までを一元管理する体制が生まれ、救難飛行艇US-2の海外移転の検討が進められています。C-2輸送機の量産機の初飛行が成功し、つい先日は先進技術実証機X-2が初飛行に成功するなど、こちらも話題に事欠きません。

宇宙分野においてはH-IIAロケット29号機による初の商業打上げが成功し、96%以上の打上げ成功率とともに、今後さらに世界のマーケットでの活躍が期待されます。

このように明るい話題は多くありますが、日本の航空宇宙産業はまだまだ大きくはない分野だと言わざるを得ません。航空宇宙産業はわが国の安全保障の根幹を担うとともに、国の成長戦略分野であり技術的に高度でかつ裾野の広い分野であることから、他の事業分野を牽引していく責任があります。各社がそれぞれ独自技術向上への努力やコストダウンへの取り組みを行うとともに、国際共同開発事業等を通じて今後倍増が期待される海外市場において更なる成長・発展していくことを願っております。

関西支部は昭和29年に創立以来、本部のご支援のもと関西地域における航空宇宙関連企業を対象に講演会や工場見学会等を実施しており、会員企業は機体、エンジン、装備品、各種機器、材料ならびに商社と、航空宇宙のあらゆる分野の企業に参加いただいております。航空宇宙産業をさらに発展させるため、この場を有意義な意見交換・議論の場としていただければ幸いです。今後とも関西支部の活動に尽力してまいりますので、皆様のご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

以上、簡単ではございますが私の挨拶とさせていただきます。



深井支部長 挨拶

講演「二式飛行艇の遺伝子を引き継ぐUS-2型救難飛行艇」(要旨)：



航空機事業部 技術本部
技術部長 藤本 記永 氏

当社は、戦前から今まで飛行艇の製造を続けてきております。世界的なマーケットを見ましても飛行艇需要が昔に比べ非常に小さくなっています。しかし需要が小さい中でも現在製造中のUS-2においては、「波高3mに離着水」が可能であり、その能力は他の飛行艇の性能を凌駕するものです。しかしその技術の多くは、先人の技術者が当時の飛行艇に改良を重ね築き上げたものです。

まずは「波高3mに離着水」できる技術をご紹介します。その技術はまさしく二式飛行艇やその後のPS-1、US-1Aと進化しながら徐々に作り上げたものです。

次に、現在におけるUS-1A/US-2の救難飛行艇として運用されている海上自衛隊艦での活躍についてご紹介します。2013年にはニュースキャスターの辛抱治郎さんが救出されたことで一時期マスコミに大きく取り上げられたことがあります。また、1992年に救出された米軍のF-16パイロットが、現在の在日米軍司令官、ジョンL.ドーラン空軍中将であったというエピソードもあります。その他、空港の無い小笠原諸島の住民の方々の急患輸送として活躍を続けております。

<飛行艇の用途について>

US-1A/US-2は現在救難機としての用途しかありません。しかし一般的に飛行艇は、消防や旅客輸送などに使われる可能性があると考えています。特に消防任務については、ボンバルディア社のCL-415など、消防専用機として開発されたこともあり、今なお多くの飛行艇が消防任務で活躍しております。水面を滑走しながら素早く水を汲み、一度の放水量が多い飛行艇は、林野火災や、大震災などの大規模火災で活躍できます。その他、違法操業漁船などへの海上監視などにも活躍できると考えております。

<飛行艇の需要>

前述では、世界の飛行艇マーケットは非常に小さいとは申し上げましたが、近年では少しずつそのマーケットに変化が表れてきております。日本では「防衛装備移転三原則」のにより、世界に防衛装備品を提供していく動きが見られますが、US-2についてはインド、インドネシアだけでなく多くの国が関心を寄せております。一方で、中国はUS-2より大きな飛行艇を開発中であり、海洋権をめぐる問題を抱える周辺国々は、警戒を強めています。また、発展途上国の急激な経済発展により航空機需要が増え、陸上空港がパンクする恐れもあり、それを回避する手段の一つとして「旅客飛行艇」という声が出始めています。当社としても、今後の世界的な需要に応えるべく飛行艇を供給し続けたいと考えております。

〔(一社)日本航空宇宙工業会 総務部部長 武藤 栄一郎〕